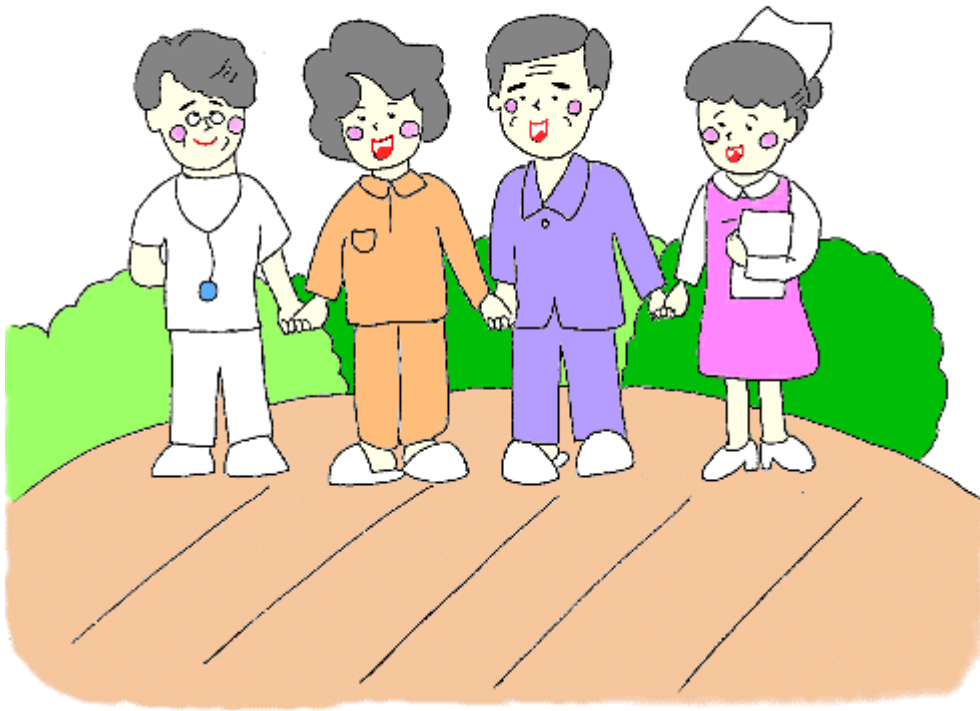




化学療法（タキソール）を
受ける患者さんへ



はじめに

いよいよ治療のスタートですね。

治療開始にあたり、緊張や不安を感じていらっしゃると思います。

このパンフレットは治療が安全で確実に、そして起こる可能性のある副作用を最小限にするために作成しました。

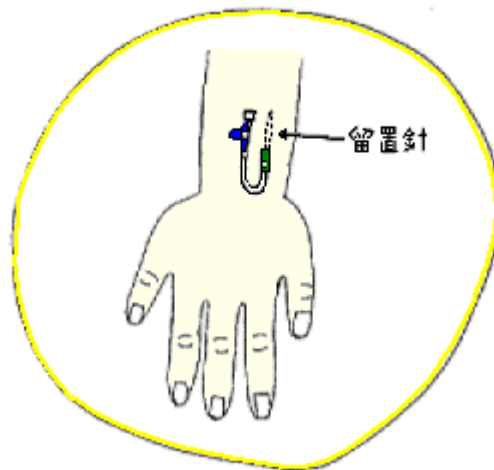
治療中は患者さん方の ” 病気に負けない！ ” という強い意志と協力が最も重要となります。主治医、看護婦と一丸となって頑張ってください。



1 . 治療前の準備

治療を開始する前日には点滴をするため、血管内に柔らかいビニール性の留置針を入れます。留置針の入っている間は針先からばい菌が入らないようにするため入浴が出来ません。治療内容により留置針が入る期間はさまざまですが、通常長くても2日位内です。

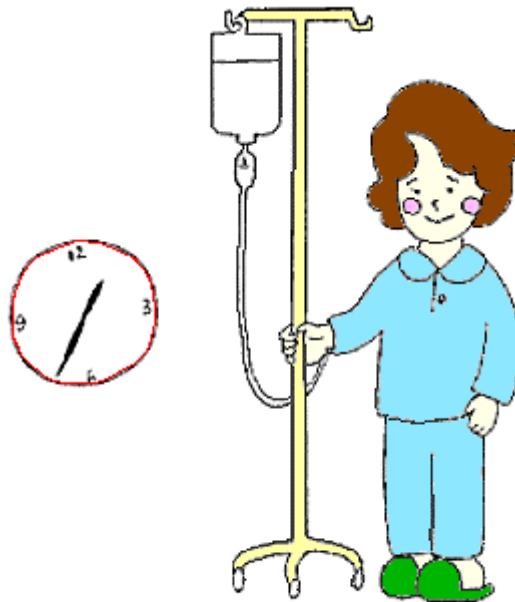
手洗いや洗面の時などに濡らさないよう気を付けましょう。



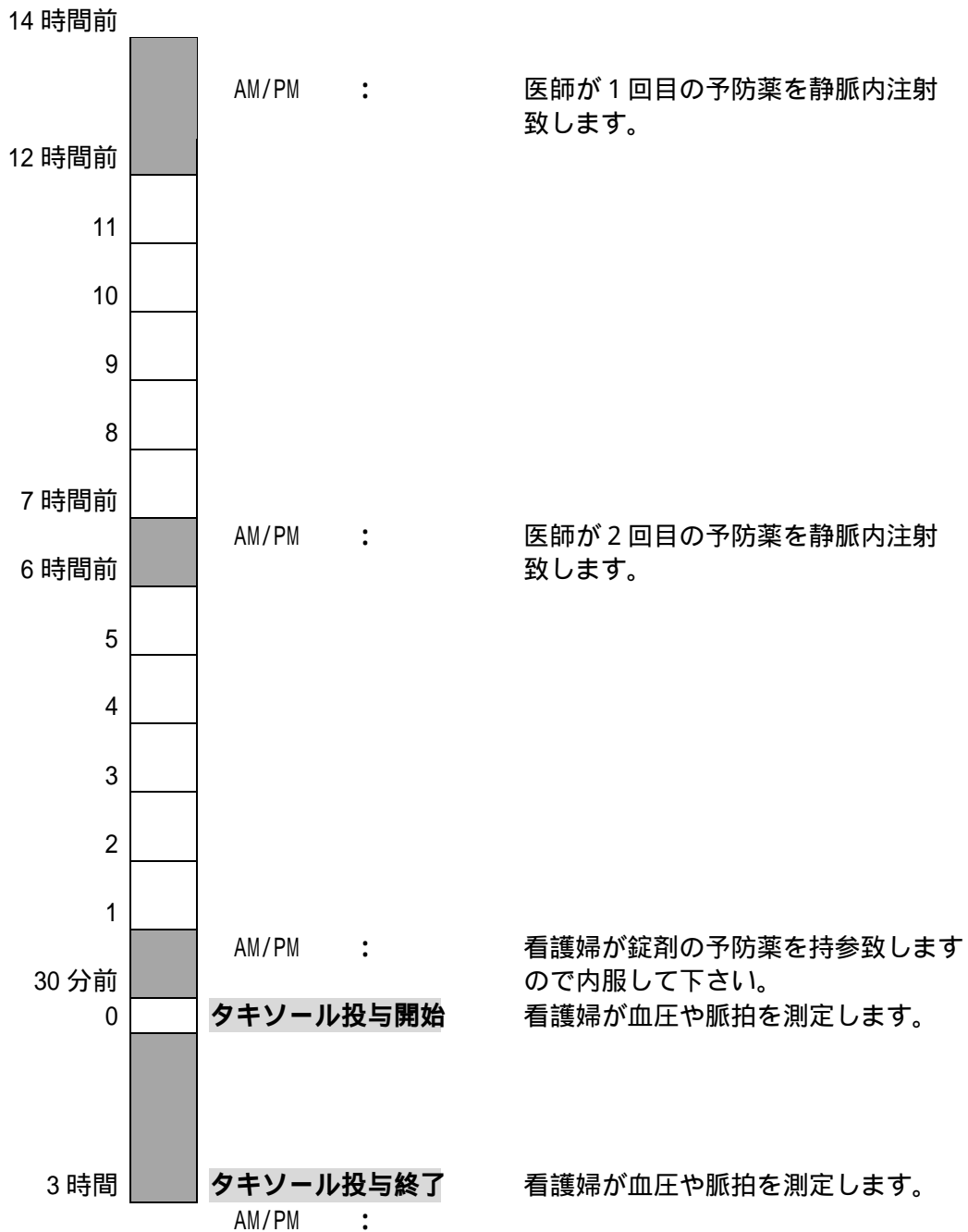
2 . 投与スケジュール

タキソール（抗悪性腫瘍剤）を使用すると、まれにアレルギー反応が起こることがあります。過敏症といい、じんま疹や顔面が赤くなったり、気分が悪くなることです。これらを防ぐためにタキソールを使用する 14～15 時間前より予防薬を点滴します。また、タキソールを使用する 30 分前には看護婦が錠剤の抗アレルギー薬を持参しますので内服してください。

タキソール使用後も消化器や腎臓への副作用を予防するために点滴があります。点滴時間は約（ ）時間要し、患者さんにとっては拘束され苦痛となるかもしれませんが、日常生活での不都合な面は看護婦が協力しますので安心して下さい。



タキソール注 投与スケジュールの1例



3 . 副作用とその対応策

タキソールによる副作用の代表的なものとその対応をあげてみました。
今までの多くの経験の積み重ねや臨床研究で、副作用を予防したり治療する方法は、かなり変わってきました。患者さんが副作用で苦しまないように細心の注意を払い、できるだけ対応策を取るよう努めています。



1 . 過敏症

予防をしてもまれに、体質に合わない場合アレルギー反応を起こす事があります。じんま疹、顔のほてり、気分が悪くなったりした場合は速やかにナースコールで知らせて下さい。

2 . 骨髄抑制

(1) 白血球減少

10日～2週間後に出現します。
免疫力が低下し、感染しやすい状態となります。
一定の数値以下になった時は白血球を増やす注射をする場合もあります。通常治療から3～4週間後には回復します。
感染予防のため、室外でのマスク着用と手洗い、うがいをこころがけましょう。



(2) 血小板減少

血小板が減少すると歯茎や鼻などから出血しやすい状態になります。

もし出血に気付いたらすぐに看護婦へ知らせてください。

また、血小板が減少した場合は次のことに気をつけましょう。

- [1] 皮膚を引っ掻いたり、強くこするのは避けてください。
- [2] 髭剃りは、カミソリではなく、電気カミソリを使いましょう。
- [3] 歯ブラシは柔らかいものを使い、刺激を少なくしましょう。
- [4] 採血後の止血は十分に行います。
- [5] なるべくベッド上で安静にしておきましょう。



(3) 貧血

点滴 10 日～2 週間後に出現することがあります。

これに伴い、貧血症状（めまい、倦怠感、ふらつきなど）が出現しやすくなります。程度が強い時には輸血をすることもあります。通常はあまり大きな問題になることはありません。

身体を起こす時や立ち上がる時、めまいなどを感じやすいのでゆっくり行いましょう。

3. 消化器症状

(1) 悪心・嘔吐

頻度はあまり高くはありませんが、これらの症状により食欲が低下してしまいます。どうしても、全体としての栄養が不足しがちなので、好きなもの、口当たりのよいもので栄養不足を補うのは良い方法です。食物、飲み物には特別な制限はありません。

例； 果物、果汁、アイスクリーム、プリン、ヨーグルト、ゼリー、炭酸飲料、豆腐、酢の物、おにぎり、など

おいしいと感じるものは何でも結構です。

主食はお粥やパン、麺類に変更することができます。

吐き気などが強い時には制吐薬の注射や内服薬もありますので我慢せずに医師、看護婦にお知らせください。



(2) 口内炎・粘膜炎

口内炎や粘膜炎ができると食欲低下や水分不足になりがちです。

口腔内は常に清潔にするよう心がけましょう。

うがいは特に大切です。一日5回（朝、昼、3時、夕、眠前）はしましょう。歯磨きは口の中が傷つかないように柔らかめのブラシでやさしく磨いてください。

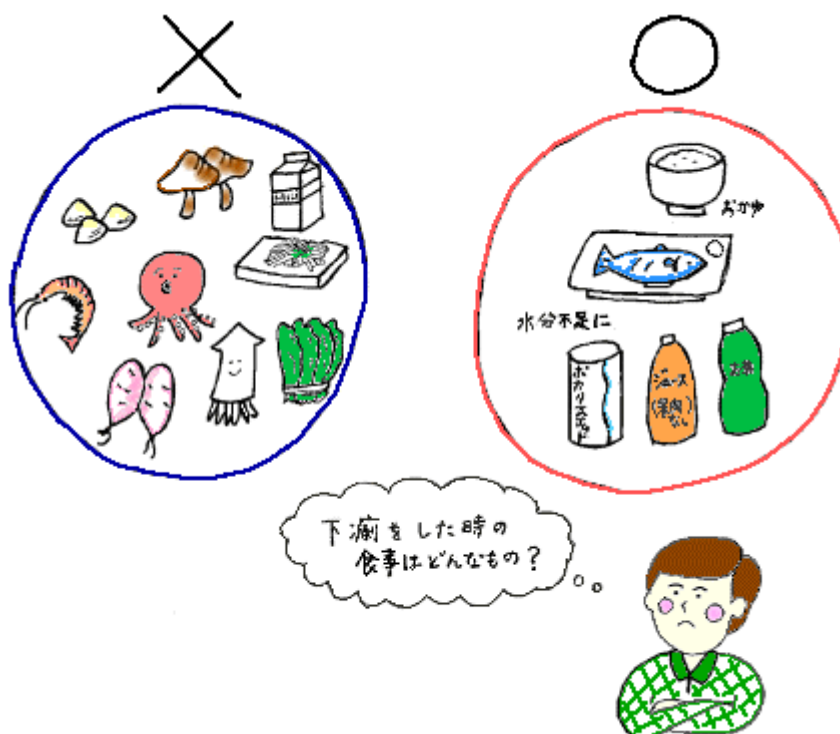


(3) 下痢

頻回になると、まれに脱水を起こすことがあります。その時は点滴などを行い水分補給をします。また内服薬もあります。

頻回にトイレへ行くようでしたらポータブルトイレを室内に準備することもできます。

* 詳しい食事内容については看護婦に相談してください。

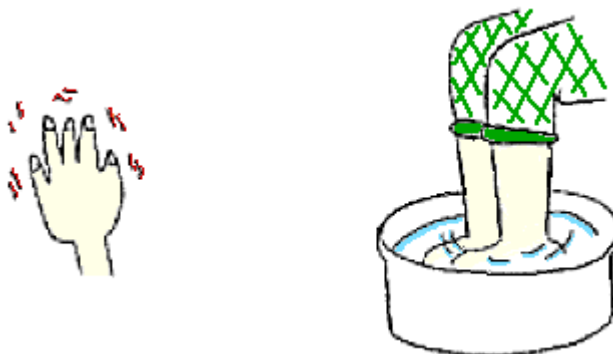


4 . 末梢神経障害

まれに末梢神経障害の症状がでてくることがあります。具体的なものとしては、手足のしびれや、刺すような痛み、焼けるような痛みなどです。軽度のものは数ヶ月以内に回復します。

症状のある手足に氷をあてたり、1日2回冷水につけることで症状が軽減できます。

症状が強くなれば鎮痛剤やビタミン剤の使用が望ましい場合もあります。



5 . 関節・筋肉痛

点滴後2～3日で出現し、数日以内で症状は回復します。体重がかかる部分で背中や下肢の関節、または筋肉に強いようです。痛みの部位の血行を促進する目的でマッサージを行ったり、温浴、温湿布が効果的です。痛みを感じる時は遠慮せずに看護婦に相談してください。鎮痛剤を使用し、苦痛を和らげましょう。

6 . 脱毛

2～3週間後に出現しますが、治療を中止すると1～2ヶ月で回復します。

脱毛が始まるとショックが大きいかもしれませんが必ず発毛してきます。少しでも発毛を早くするために入浴中に頭部をマッサージして血行を促進させましょう。入院中はネットや帽子、バンダナなどの使用を行い、カツラをご希望の方はご相談ください。

7. 放射線の副作用

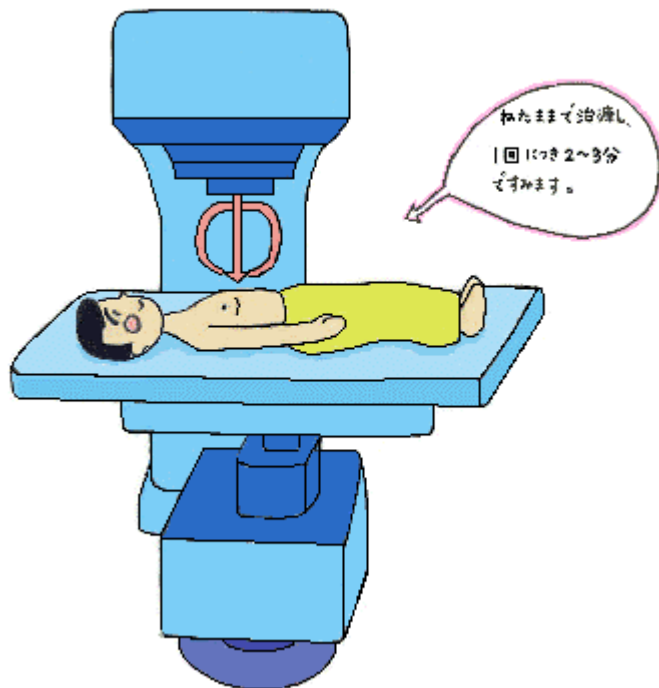
タキソールの治療は放射線と同時に行われることもありますので、放射線治療による副作用についてあげてみました。

(1) 放射線酔い

放射線療法を始められた方のごく一部で、全身倦怠感、食欲不振、吐き気、発熱、不眠、口渇、頭痛、めまいなどが見られることがあります。これらの症状には個人差があり、治療開始後1～5日目ぐらいで出現しますが、長くても1～2週間で消失し長く続くことはありません。

(2) 造血器障害

血小板、白血球の減少がみられますが、放射線治療単独では大きな問題になることはほとんどありません。また万が一減少の程度がひどい時には、副作用止めの薬剤を使います。



(3) 放射線による局所障害

[1] 放射線皮膚炎

皮膚が赤くなり色素が沈着したり、皮膚が乾燥し、表皮落屑やかゆみが出てくるかもしれません。爪でかいたり、手持ちのかゆみ止めなどを塗らないようにして下さい。（主治医が塗り薬を処方します）薬は放射線治療後に塗りましょう。

[2] 放射線肺臓炎

空咳、熱、動作時の息切れなどがみられます。症状が進めば、安静時の呼吸困難がみられます。気になることがあれば、すぐにお知らせ下さい。

[3] 放射線食道炎

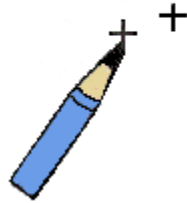
食事やつばを飲み込む時に痛みや通過障害がでできます。食道粘膜の炎症は一時的ですが、この間は熱いものや冷たいものは避け、薄味で柔らかいものを少しずつ食べましょう。粘膜保護剤の飲み薬（マーロックス・アルロイドGなど）も忘れずに飲んで下さい。喉の痛みがひどくて、食事が入らない時はすぐにお知らせ下さい。食前・食後にうがいをし、口の中を清潔にしましょう。



<日常生活での注意点>

- 放射線をあてる所にマジックで印がつきます。大切な印なので自分で消したり、印が消えかかっているからといって、ペンで書き加えたりしないで下さい。
- 印の上に絆創膏や湿布をはらないようにして下さい。
- 放射線をあてているところの皮膚は、炎症を起こしやすく過敏になっているので、強く石鹸でこすったりしないように気をつけましょう。

副作用の対応策は、化学療法の副作用のページをご覧ください。



副作用の出現の仕方や程度は個人によってさまざまです。
必ずしもでるとは限りませんが、もし副作用が出現した場合は
すぐに医師、看護婦に相談してください。



終わりに

その他気づいたこと、心配なこと、わからないことがあれば
気軽にいつでも声をかけてください。
いつも、見守っています。



九州大学医学部附属病院 東9階病棟(呼吸器科)
平成12年2月1日作成